

平成28年1月30日(土)

老球の細道205

番狂わせ(アップセットUpset)を起こそう

会津バスケットボール協会 室井 富仁

室町時代において、社会的に身分の低い者が身分の上位の者を実力で倒す風潮を下剋上という。応仁の乱によって將軍の權威は失墜し、その無力が暴露するに及んで、守護大名の勃興と莊園制の崩壊を招き、実力がすべてを決定する戦国時代となった。日本史において最も好きな時代は、この戦国時代と江戸幕府が滅びる幕末時代である。

好きな理由は、わが会津藩がどちらの時代においても表舞台に出てくるだけでなく、今まで強いと思われていた者を破る新興勢力が現れたり、今まで天下を取っていた者が敗れるという常識を覆す激動のドラマが生まれたからである。

スポーツの世界も同じ。今まで勝てなかった者がチャンピオンを破ったり、また別の者がそれを破ったりする下剋上の状態こそ面白い。このようなことをスポーツの世界では「番狂わせ(アップセット)」と称して大きな話題となる。最近ではラグビーワールドカップでの日本代表が南アフリカを破る快挙、大相撲では日本人力士琴奨菊の優勝などがあげられるだろうか。

先日会津地区で県高校新人大会が開催された。男子は福島南の圧勝、女子は福島西、郡山商業の2強の対決で福島西が勝利を得た。男女ともほかのチームとの実力を比較すると当分この3チームの天下が続くような予感がする。

そこで他のチームにお願いしたいことは「番狂わせ(Upset)」を起こしてほしいということである。他のチームがそのような気構えで対戦することはダントツチームの実力を向上するうえでも有効である。県内に番狂わせを狙う多くのチームが存在することこそトップチームを育てるための有効な環境となる。

「勝負の法則」ということを現役の頃いつも考えていた。どんなに強いチーム、でも調子には波があり、実力には最高から最低までの幅がある。とにかく弱いチームは自分たちの最低の状態強いチームの最高の状態を比較する。だから「絶対勝てない」と思い込み、試合開始でコートに並んであいさつする段階で精神的に20点差をつけられてトスアップする。勝てるわけがない。

弱いチームが自分たちの最高の状態で強いチームの最悪の状態で戦ったらどうだろう。10回に1回は勝てるかもしれない。戦略戦術、作戦でそのようなゲームプランを立てて準備すれば番狂わせは起こせる。相手の強みを出させないようにして、こちらの強みで相手の弱みをたたき続ける。石で豆腐をつぶす。

勝負する者にとって最高の喜びは強い者を倒すことである。観客もそれを最も望んでいる。普段の練習も自分たちよりも弱いチームを倒すために日夜励んでいるわけではない。自分たちより今まで強かったチームを倒すために励んでいることを忘れてはいけない。スポーツの勝負、ゲームの醍醐味は番狂わせにあり。